

2020年12月28日
イオンフードサプライ株式会社

ラベルのチェック作業の効率化により、食品ロス削減に貢献 AIを活用した「リモートラベルチェックサービス」の本格導入開始について

イオンフードサプライ株式会社では、畜肉の製造加工において、AIによる製品のラベルチェックシステムを畜肉加工拠点の5工場において本格導入しました。このシステムの導入により、製品のラベルチェックの作業軽減や、表示チェックの更なる精度向上が可能となります。今後は2021年春までに、7工場でこのシステムを稼働させることで、現場における作業の効率化を図ります。

<システムの概要>

専用端末を使用し、製品に貼られたラベルを写真撮影することで、事前に登録された画像データとの照合をAIが行います。照合結果が一致しない場合は、端末画面にエラーが表示され、作業者に通知されます。

<システムの導入・効果>

本システムは、日本全国の自社工場において、日々平均40万パックの精肉製造をしているイオンフードサプライ株式会社が有する豊富な画像データと、日立造船株式会社が有するAI分析技術の組み合わせにより実現しました。2016年から段階的にシステムを構築し、2020年10月より本格導入を行い、以下の効果がありました。

- ① 表示チェックの更なる精度向上
- ② ラベルチェック作業の生産性向上

チェック時間短縮と作業効率化による作業時間全体の短縮を図るとともに、ペーパーレス化を実現しました。

- ③ 多様な人材の活用

従来のラベルチェック作業は、全て熟練者がチェックをしていましたが、本システムの導入後は、一定の習熟レベルの作業でもチェックが可能となりました。教育の効率化にも結びついており、様々な人材の活用に寄与しています。

今後は表示チェックの更なる精度向上による食品の廃棄ロスの削減をはじめ、判断業務のAI化や、一層のペーパーレス化による業務効率化、さらにはフードディフェンス(食の安全の更なる向上)に活かしてまいります。



<画像解説> 製造された製品を専用端末で撮影した後、AI判定を行い、ラベルチェック作業を実施。